

# はくぶつかんネット

第81号

令和6年11月～令和7年3月号  
発行：宜野湾市立博物館

市立博物館 開館 25 周年記念企画展Ⅲ

## 洞窟のナゾ展

無事終了  
いたしました！

～洞窟から探る宜野湾～

春の訪れが感じられ、浜下りやシーミーが近づく今日この頃、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？

昨年 2024（令和6）年で、当博物館は開館 25 周年を迎えました。それを記念して、全3回の記念企画展を計画し、第1弾の「お金で世界を感じ展 ～翁長良明氏古銭収集 70 年のあゆみ～」、第2弾の「みんなの進化展 ～命はつながっている～」に続き、第3弾として「洞窟のナゾ展 ～洞窟から探る宜野湾～」を開催しました。

本展は、市内に数多くあり、地域の人びとにも身近な存在であった洞窟（鍾乳洞）にスポットを当てて展示をおこないました。先史時代から人びとと深い関わりを持ってきた宜野湾の洞窟について、自然・考古・民俗・戦争など、さまざまな視点から紹介しました。また、南城市の「サキタリ洞遺跡」やうるま市の「<sup>やぶち</sup>敷地洞穴遺跡」など市外の洞穴遺跡も併せて紹介し、県内他地域の洞窟についても理解を深めてもらいました。



2024（令和6）年11月2日（土）から2025（令和7）年1月19日（日）までの開催期間（61日）で、市内外及び県外から2,128名のご来場がありました。ご来館いただいた皆さまからは「洞窟のでき方が、実物と見本の両方があるので理解しやすかったです。」「鍾乳石にもたくさん種類があるのを知って、すごく勉強になりました。沖縄大の普天満宮の発掘調査の成果も知れてよかったです。」「洞窟と信仰のつながりが知れてよかったです。」「沖縄戦時の洞窟の様子が理解できました。」など多くの感想をいただきました。たくさんの方々にご来館いただきまして、誠にありがとうございました。

今回の企画展では、沖縄県立博物館・美術館並びに株式会社南都おきなわワールドなどをはじめとする多くの機関から貴重な資料をご提供いただきました。ご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

次のページでは、展示の内容を一部紹介するケロ♪





## ぎのわんの自然・洞窟

宜野湾の大地の大部分は琉球石灰岩で覆われています。水を通しやすく、酸性の水に溶けやすい琉球石灰岩層には洞窟（鍾乳洞）が形成されます。

また、石灰岩は水を蓄える性質もあることから、湧き水も生じさせます。このような地形の特徴により、宜野湾市内にはたくさんの湧き水や洞窟が存在します。ここでは、地図や写真で宜野湾の地形の特徴や市内にある洞窟を紹介しました。洞窟（鍾乳洞）の詳細については、鍾乳洞のジオラマ、いろいろな鍾乳石の実物などを展示し、洞窟内部の様子や洞窟が出来るまでを解説しました。



鍾乳石の展示



いろいろな形の鍾乳石



鍾乳洞のジオラマ

## ぎのわんの洞窟と歴史・遺跡

長い年月をかけてつくられた洞窟は、その歴史の中で人びととの関わりをもってきました。宜野湾市内には洞窟にかかわる遺跡が

22カ所知られていて、時代によって洞窟の利用方法に応じた道具などが発掘調査によって見つかっています。ここでは、市内の洞窟遺跡から出土した、動物の骨や土器、石斧、炉跡などを展示し、過去の人びとの洞窟での様子を紐解いていきました。また、「サキタリ洞」や「藪地洞穴遺跡」など市外の洞窟から見つかった人骨や貝類などの展示から、他の地域の洞窟利用についても紹介しました。



先史時代の人骨と復元模型



普天満宮出土のシカの骨格など



市内洞窟遺跡の出土遺物

## ぎのわんの洞窟と信仰・沖縄戦

洞窟は昔から人びとの信仰の対象とされてきました。洞窟は、海の彼方や地の底にある「ニライ・カナイ」という豊穡や災いをもたらす

とされる他界へ繋がる場所とされ、洞窟から祈りが捧げられてきました。沖縄戦の最中は、洞窟は地域住民の避難壕としても利用されていました。ここでは、写真や絵図で洞窟内やその周辺にある拝所、洞窟にまつわる民話など洞窟に関わる信仰について紹介しました。戦時中の避難洞穴位置図やいくつかの洞窟平面図、浦添市にある「チヂフチャー洞穴遺跡」の調査で収集された遺物などから、避難壕の内部や生活の様子を紹介しました。



洞窟から見つかった香炉や銭貨など



普天満宮にあった石灯籠



洞窟の避難壕の展示



地域との共同企画展 <sup>あぎ</sup>ぎのわんの”字”展

開催中！

新天地を求めて～屋取集落編 其之二～（真栄原・佐真下）

昨年度に行った宜野湾の字展「屋取集落編」が、今年度は「屋取集落編其之二」と題して真栄原・佐真下（現真栄原区）を紹介します。真栄原・佐真下は、首里・那覇から移住してきた土族が宜野湾南部に形成した屋取集落で、真栄原は1939（昭和14）年に字として独立、佐真下は、1943（昭和18）年に真栄原から分離しました。

本展示会では、真栄原区自治会や佐真下郷友会をはじめとしたご協力のもと、真栄原・佐真下の歩んできた歴史や地域に残る行事・文化財を中心に紹介するほか、戦後の真栄原区としての統合や街の移り変わりなどを紹介しています。2月1日（土）から始まった展示会も終盤を迎え、3月30日（日）までの開催となっております。もう既に展示を見ていただいた方も、まだ見てないという方もぜひ、当館へ足を運んでいただければ幸いです。

見学の様子



関連講座の様子



2～3月は社会科見学で子どもたちがたくさん来てくれたけど、真栄原区の「おもしろ看板」や今回初お披露目の「我如古（ナガサクガマ）の化け猫」のアニメは大人気だよ！



3/2（日）に仲村元惟先生を講師として、戦前の佐真下の様子を公演していただき、3/9（日）は、当館の平敷館長を講師として真栄原・佐真下のフィールドワークを行いました！

わらば～体験じゅく 開校25周年記念

功労者感謝状贈呈式 が行われました♪

最初のページでもお伝えしていますが、宜野湾市立博物館はおかげさまで昨年の6月に開館25周年を迎えました。そして、その開館当初から始まった「わらば～体験じゅく」も、同じく第25期目を迎え、6月から毎月1回（全9回）、様々な内容の体験を終え、2月15日（土）に「閉校式」を行いました。また、この25年の間、様々な分野の講師の方々を支えていただきました。その中でも長期（10年前後）にわたり対応してくださった方へ感謝の気持ちをお伝えしたく、8名1団体の皆さんへ、功労者感謝状贈呈式を閉校式後に行いました。

講師を代表してあいさつをいただいた、田イモ農家の石川達義さんよりわらば～体験じゅくのじゅく生へむけて、「私は田イモに関してはプロフェッショナルです。私ができることであれば、どんどん皆さんに伝えていくことはできるので、インターネットで検索して分かった気になるのではなく、実際に触れる・見る・聞くなどをして欲しい。ゲームなどで家にこもるのではなく、もっと外に出て行って欲しい」と熱いメッセージをいただきました。

贈呈式に出席していただいたみなさま、およびこれまでわらば～体験じゅくの講師をしていただいたみなさま、対応くださりありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



長期にわたり対応くださった講師の皆さん（五十音順・敬称略）

- 伊佐 實雄 ■石川 達義 ■喜屋武 盛信 ■髙原 建二
- 比嘉 和行 ■宮城 邦治 ■宮城 徳彦 ■宮城 徳康
- NPO 法人 アートリンク（代表：宮島 さおり）



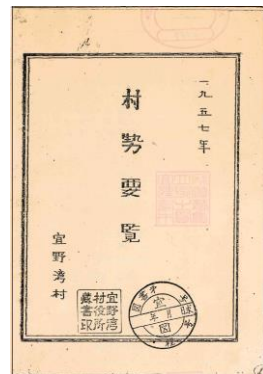
今年度の「がちまやあ」は「<sup>ちし</sup>地誌から見るぎのわん」というテーマのもと、近世（1609年～1879年）、近代（1879年～1945年）、現代（1945年～現在）の宜野湾はどういったところだったのか、全3回に分けて紹介しています。第3回は、「戦後の地誌的資料にみる宜野湾」です。

## 戦後のぎのわん ～『1957年村勢要覧』から～

市町村の概要を説明する『市勢要覧』『村勢要覧』といった刊行物は各自治体から出されています。これら自治体の状況・統計資料としての「要覧」は、自治体による地誌的資料とみることもできます。

宜野湾でもこのような「要覧」が刊行されており、現在のところ、博物館で内容が確認できるのは1957（昭和32）年の『村勢要覧』からです。この1957年の『村勢要覧』の内容を見てみましょう。

「目次」は次のとおり。



### 総論 1.沿革 2.村の位置・村略図 3.村の地勢 4.村の土性

#### 1 土地、家屋 1.面積 2.軍用地 3.可耕地面積 4.家屋

#### 2 戸口 1.人口及び世帯数 2.人口動態 3.選挙有権者数

#### 3 教育、社会、文化 1.学校 2.保育園 3.校舎の概況 4.教育財源 5.文化施設 6.公的扶助

#### 4 消防 1.消防隊組織 2.器具

#### 5 交通、通信 1.道路 2.橋梁 3.通信

#### 6 産業 1.産業別就業者調 2.耕地の利用条件 3.農家経営状況（イ.経営規模別農家戸数及び人口 ロ.自小作別農家戸数及び人口 ハ.家畜飼養戸数及頭羽数 ニ.家畜飼養用途別頭羽数 ホ.家畜生産状況） 4.農作物の生産現況

#### 7 財政 1.歳入歳出予算決算 2.村税収入状況 3.固定資産に関する調 4.村民所得調

#### 8 行政機構 1.役所 2.部落行政区画 3.役所所在地 4.役職員 5.議会 6.機構図



軍用地の高い割合は、現在の状況にも  
つながっているんだケロ

### 〈軍用地の割合〉

「1 土地、家屋」の項目に「2.軍用地」があり、目次を一読した段階で、当時の宜野湾村をとりまく状況が見て取れる部分があります。

この項目の内容としては、村の土地における各地目（田、宅地、墓地 等）の軍用地の面積と、その地目別総面積に対する百分比（％）を出したもので、全体では軍用地の面積は44％となっています。

I. 土地、家屋				
地目	面積	軍用地	軍用地割合	地目別総面積
田	3,268.846	743.09	32	3,268.846
畑	31,641.31	14,475.575	45	31,641.31
宅地	4,418.29	190.227	43	4,418.29
山林	4,888.89	210.921	43	4,888.89
原野	3,267.35	326.735	39	3,267.35
墓地	312.571	97.326	46	312.571
雑種地	22,017	7,523	34	22,017
池沼	4,815	1,115	23	4,815
拜所	8,471	3,679	40	8,471
沼池	7,763	2,427	31	7,763
公園他	40,223	15,029	37	40,223
合計	49,453.90	21,794.27	44	49,453.90



## 〈産業構造〉

「6 産業」は農業に重きをおいた統計資料となっています。

6. 産業			
1. 産業別就業者調			
職種別	人 員	百分比	
生産業	農 業	2,014	32.88%
	水産業	18	0.35%
	製造業	117	1.91%
	建設業	237	3.86%
非生産業	軍作業	1,778	29.00%
	サービス自由業	254	4.21%
	卸小売業	882	14.13%
	公務員	274	4.47%
	運輸通信公益業	203	3.31%
	金融工業	39	0.64%
	金融不動産業	8	0.14%
	合 計	6,124	100%

「6 産業」の「1. 産業別就業者調」では、職種を「生産業（農業、水産業、製造業、建設業）」「非生産業（軍作業、サービス自由業、卸小売業、公務員、運輸通信公益業、金融工業、金融不動産業）」に分類していますが、「非生産業」では「軍作業」が突出して多く、1,778 人が「軍作業」で、全体(6,124 人)のうちの 29%におよんでいます。しかし、農業に従事する人は 2,014 人(全体の 32.88%)で最も多くなっており、村の総面積の 44%を軍用地に取られながらも、農業は依然として主要産業であったことがわかります。



メスホール（普天間食堂）とその従業員



農作業

## 〈村民の所得〉

一方、「7 財政」の「3. 村民所得調」を見ますと、農業による所得よりも、軍作業による所得が上回っています。世帯の実態としては農業・軍作業とも専業のみとはいえないと推測されますが、従事する人数の多寡と実際の所得割合とのギャップが見てとれます。

農業に従事する人は多くとも、農業だけで生活するのはたいへんな時代だったようだのう…



3. 村民所得調			
産業別	所得金額	総所得額に対する百分比	
生産業	農 業	54,633,039	20.70%
	水産業	162,000	0.62%
	製造業	5,996,500	2.3%
	建設業	9,770,970	3.76%
非生産業	卸小売業	33,411,120	12.86%
	サービス自由業	33,338,380	12.60%
	公務員	15,946,800	6.13%
	運輸通信公益業	2,059,600	0.79%
	軍作業	71,840,090	27.65%
	其の他	26,617,776	10.7%
	合 計	259,800,000	

1957 年の『村勢要覧』を見てきましたが、これら『要覧』は時代によって項目・内容にも変化が見られるもので、それがその時期のその自治体の状況を反映しているものと考えられます。統計資料は項目の立て方によってはすくいきれない情報がありますので、読み取り方には注意が必要ですが、その時期、その時代の生の情報であるため、その重要性は皆に認められるものといえるでしょう。

現在は『市勢要覧』というタイトルで 4 年ごとに刊行されており、目にする機会も多い行政刊行物です。現在の宜野湾をどのように記録・分析し、公告しているのか、機会がありましたらどうぞ、ご覧になってみてください。



## 第25期 わらば～体験じゅく

昨年の6月から始まり、今年の2月に終了した「わらば～体験じゅく」の活動を振り返ります。

今年度は、市内の小学5・6年生を対象に抽選で選ばれた25人のじゅく生が、主に宜野湾市の歴史や文化について、他校・異学年の仲間たちと協力しながら体験を通して学びました♪

### 第1回 6/15

開校式／博物館見学と  
学芸員体験・昔の道具体験  
講師：博物館職員



これから約1年間、一緒に体験する仲間たちとの初顔合わせ☆どんな事が起こるのか、楽しみです♪

### 第2回 7/27

ウシのお世話を  
してみよう！  
講師：宮城 邦治さん  
喜屋武 盛信さん



その昔、宜野湾市でも行われていた「闘牛」。そのウシ達と、牛舎の掃除や散歩・水浴び等でふれ合いました★

### 第3回 8/24

宜野湾の海と  
サンゴを知ろう☆  
講師：佐藤 太一さん  
（宜野湾マリン支援センター）



宜野湾の海の中をVRで見たり、シュノーケリング体験や、サンゴを使ってフォトフレームを作りました。

### 第4回 9/21

喜友名のシーサーめぐり  
講師：博物館職員



シーサーは屋根や門の上にいる他に、集落を守るシーサーもいる事が分かりました。

### 第5回 10/26

田イモの植付けに挑戦！  
講師：宮城 徳彦さん  
（大山 田イモ農家）



宜野湾市の特産品である「大山のタイモ」の植付けと収穫を体験！作物を育てる事の大変さや、楽しさを学びました！

### 第6回 11/16

私たちの足下の  
奥の奥を知ろう！  
講師：宇佐美 賢さん  
（沖縄県立博物館・美術館）



私たちの足下の奥の奥はどうなっているのかを、喜友名泉や普天満宮洞穴などを実際に見て学びました。

### 第7回 12/14

漆の技法体験  
講師：NPO 法人 アートリンク



沖縄の伝統工芸である琉球漆器について職人さんから学び、実際に技（沈金技法）を体験しました。

### 第8回 1/18

山芋スープ  
講師：宮城 邦治さん



芋は芋でも、田芋とは違う「山芋」の収穫を体験し、土壌の違いによって、育つ作物が違うことを学びました★

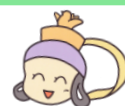
### 第9回 2/15

葉脈スタンプカード  
づくり／閉校式  
講師：博物館職員



木の葉を使って、葉脈スタンプカードを作成した後、閉校式を行いました★みんな「じの～ん通」になれたかな？

4月に市内在住の5・6年生になる皆さんの中で、興味のある方は、博物館から配布される申込用紙をぜひ持って来てね♪ 一緒に宜野湾市の歴史や文化について、楽しく学ぼう！





# 博物館市民講座を振り返って

令和6年度の市民講座は、◆室内講座11回、●野外講座5回の合計16回の講座を無事終了し、どの講座も大変ご好評をいただきました。オンライン参加も含めて累計で509名もの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました！！

## ◆第1回 5/12「古銭収集 70年間のあゆみ」 翁長 良明(古美術コレクター)



開館 25 周年記念企画展Ⅰ「お金で世界を感じ展」に関連して、コレクター暦 70 年にまつわる思い出について紹介していただきました。

## ●第2回 6/8「リュウキュウツミの観察会」 宮城 邦治(沖縄国際大学 名誉教授) 飯沼 慶一(学習院大学 教授)



ロビー展示「リュウキュウツミの成長」に関連して、隣接する森川公園にて、リュウキュウツミの生態観察を行いました。

## ●第3回 6/30「嘉数高台周辺の戦跡めぐり」 平敷 兼哉(市立博物館 館長)



「慰霊の日写真パネル展 沖縄戦の中の宜野湾」に関連して、嘉数高台周辺に残る戦争遺跡を徒歩でめぐりました。

## ◆第4回 7/20「宜野湾の自然」 千木良 芳範(元宜野湾市立博物館 館長)



宜野湾市内の自然環境の特徴や、観察に適したスポット、身近な昆虫や爬虫類について紹介していただきました。

## ◆第5回 8/4「みんなの進化展」 菊川 章 (沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)



開館 25 周年記念企画展Ⅱ「みんなの進化展-命はつながっている-」に関連して、生物の進化や、企画展の解説をしていただきました。

## ◆第6回 8/25 「沖縄の民俗習俗～沖縄の呪具～」 高江洲 敦子(沖縄国際大学 非常勤講師)



沖縄の魔除けとして使われる植物(サン、ゲーン)、貝や呪具を例に身近な民俗習俗について解説をしていただきました。

## ◆第7回 9/8「沖縄空手の伝播」 仲村 顕(沖縄伝統空手道振興会 研究員)



パネル展「沖縄空手の伝播」に関連して、沖縄空手の県内、県外、海外での広がり、普及に係る今後の課題について解説していただきました。

## ◆第8回 9/15「沖縄の瓦」 上原 静(沖縄国際大学 名誉教授)



沖縄に伝来した高麗瓦の特徴や沖縄と朝鮮系瓦との比較、グスク系瓦について詳しく解説をしていただきました。

## ●第9回 10/20「ぶらっと、博物館めぐり」 宮里 ひな子(名護博物館 学芸員) 山田 沙紀(名護博物館 学芸員)



令和5年度に新館オープンした名護博物館にて、常設展、バックヤードの紹介をしていただきました。

## ◆第10回 11/10 「宜野湾市の洞窟～自然・歴史・民俗～」 新垣 義夫(普天満宮 宮司)



開館 25 周年記念企画展Ⅲ「洞窟のナゾ展～洞窟から探る宜野湾～」に関連して、宜野湾市内の洞窟にまつわる民間伝承、信仰、二次生成物や調査報告について解説をしていただきました。

## ◆第11回 12/8「洞窟と人骨」 山崎 真治 (沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)



開館 25 周年記念企画展Ⅲ「洞窟のナゾ展～洞窟から探る宜野湾～」に関連して、沖縄の洞窟と出土人骨について、県内の調査報告を基に、特徴を海外の出土例と併せて解説していただきました。

## ◆第12回 1/19「首里城再建」 幸喜 淳 (沖縄美ら島財団 琉球文化財研究室 室長)



現在再建が進められている首里城、文化財の修復状況や、今後の課題について解説をしていただきました。

## ●第13回 2/9「宜野湾市の古墓めぐり」 長濱 健起(市立博物館 係長)



宜野湾市内の古墓(小祿墓、本部御殿墓など)5か所を、解説を交えながらめぐりました。

## ◆第14回 3/2「琉球王国と宜野湾」 麻生 伸一(琉球大学 教授)



歴史書「球陽」を読み解きながら琉球王国時代の宜野湾の様子や、農民の生活状況について解説していただきました。

## ◆第15回 3/9「真栄原・佐真下の生活史」 仲村 元惟(元宜野湾市史編集委員会 委員長)



地域との共同企画展「ぎのわんの字展～新天地を求めて～」に関連して、真栄原・佐真下の戦前の暮らしや、人々の精神文化について解説していただきました。

## ●第16回 3/9 「めぐてい！イガルーシマ真栄原・佐真下」 平敷 兼哉(市立博物館 館長)



地域との共同企画展「ぎのわんの字展～新天地を求めて～」に関連して、真栄原・佐真下の街並みに残る戦前のこゝろ跡を徒歩でめぐりながら紹介しました。

### 追悼：新垣義夫さん

2月15日、普天満宮の新垣義夫宮司が逝去いたしました。

新垣義夫宮司は、長年、博物館協議会会長や宜野湾市史編集委員会委員を務めました。義夫さんは話し好きで、親しみやすい気さくな方でした。企画展では資料の提供、市民講座の講師、「市史」の民俗、自然等の調査、執筆等、多岐にわたって本市の歴史や文化の紹介にご協力いただき、わたし達にも色々なことを教えてくださいました。

新垣義夫さん、ありがとうございました。安らかに眠りください。



市立博物館では、8月に学芸員実習、12月と1月に職場体験学習(2校)の受け入れを行ったので、皆さんの感想を一部紹介します。

## 学芸員実習(8/7~19)

学芸員実習は将来の学芸員(博物館で働く専門職)を目指す学生さん達が取り組む実習なので、内容が本格的です。

【石原 昌朋さん：沖縄国際大学】 11日間の博物館実習を受けて、学芸員は雑芸員と呼ばれる理由が分かりました。また、企画展1つでもここまでやるんだと学芸員の裏側を知ることができて良かったです。そして、違う分野も行う姿を見て、学芸員になることは様々な分野にも挑戦し、博物館の魅力を伝えることだと学びました。

【仲里 有佑理さん：沖縄国際大学】 この11日間の博物館実習は、とても良い勉強になりました。特に勉強になった事は、日常生活の中でアンテナを張り続けるという事と、そうして得た情報を入館者や展示に活かす発信力が必要となるという事です。細かな情報収集が質の高い展示や解説に繋がるのだと実感しました。

【高柳 遥陽さん：琉球大学】 博物館実習を終えて、1日1日が大変で充実していたことが多かった。一方で、実際の学芸員の業務により近い形で体験させてもらい非常に貴重なものになった。博物館の業務は、体も動かすなど、非常にハードなので、体力もつける必要があり、体力的にもそうであるが、忙しさに負けない忍耐力も必要である。

【眞喜志 悠音さん：琉球大学】 今回の博物館実習を通して、学芸員という仕事のやりがいや大変な部分について学ばせていただきました。特に印象に残っているのは、教育普及に関する取り組みです。学校との連携の難しさや子どものための展示・解説の工夫について知ることができ、とても貴重な体験となりました。

## 職場体験学習(眞志喜中学校:12/4~5 ■ 普天間中学校:1/22~23)

【江藤 時雨さん：眞志喜中学校】 最初は分からない事も多く、不安でしたが、職場体験を通して、職員の皆様から色々な事を学ばせていただき、博物館への関心も高まりました。出前講座では体験したことのない新たな立場での経験をさせていただき、館内の見学では博物館への知識を高めさせてもらいました。

【呉屋 海大さん：眞志喜中学校】 今回の職場体験を通して、あまり知らない博物館の仕事について、実際に見て、やったりする事で、たくさん学ぶことができました。その他にも、質問などで将来に役立つ事が多くあり、とてもいい経験ができました。

【吉田 朱里さん：眞志喜中学校】 初めは仕入れたものをただ展示して、客を案内するだけの職業だと思ってたけど、物を仕入れる時、状態が良いものや持っていないものなどを受け取って、倉庫にしまっていることが分かりました。あと、出前講座に行く時は学校と博物館で時間はいつにするかなどの細かい打合せをすることが分かりました。

【吉永 大翼さん：眞志喜中学校】 宜野湾市の昔のことや、普天間小学校のよこに平和祈念像の原型があることに、おどろきました。

【国吉 真花さん：普天間中学校】 博物館の仕事あんまり知らなかったけど、うらでたくさんやってるんだってことを実感しました。いざやるとむずかしい事もちょっとあったんですけど、楽しみながらできたので良かったかなと思います…! やったこと無いこともできたのでいい体験だったかなと思います!!

【比嘉 優華さん：普天間中学校】 この職場体験を通し、大人の方々の気使いや博物館が展示物をどれだけ大事にしているかが分かりました。喜友名のシーサーについてそれぞれ調べた事を発表する時は、私はきんちょうしすぎても話せなかったけどそんな時に「ゆっくりでいいよー」など明るく言ってくれたりしていただきました。

## 令和6年度の博物館活動を振り返って

令和6年度の博物館事業と市史編集事業が終わりました。この度は、当館主催の企画展へのご来館、講座、教室等へのご参加、誠にありがとうございました。令和6年度は、当館開館25周年の節目となり、それを記念した企画展を3本開催しました。なかでも記念企画展の第一弾「お金で世界を感じ展」では、翁長良明氏には大変お世話になりました。70年間かけて収集した古銭の展示だけでなく、その後、資料の一部も当館に寄贈いただき、感謝申し上げます。展示資料では、大山貝塚資料や宜野湾並松の樹根、山田真山氏のアトリエ跡に残る床面壁画の剥ぎ取り資料など、この節目に新資料の追加展示も行いました。おかげ様で利用者也昨年度を上回り、28,577人(令和7年3月9日現在)となりました。また、市史編集事業についても『宜野湾市史』第5巻民俗の解説編の刊行において専門委員会を立ち上げ、現状調査を開始しました。

市立博物館では、2025(令和7)年が戦後80周年を迎えますので、戦後80周年記念の企画展を開催する予定です。今後とも引き続き、宜野湾市立博物館を宜しく願いいたします。ぜひ、博物館にいらしてください。お待ちしております!

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市眞志喜 1-25-1  
TEL: 870-9317 FAX: 870-9316

- 入館料：無料
- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：毎週火曜日、祝日、年末年始(文化の日、慰霊の日は開館)

